

阿嘉島の鳥 part 1

上林 利寛

AMSL調理担当

冬の畑に飛来した鳥たち

Birds in Akajima Island, Part 1.
Birds came flying on field in winter

T. Kamibayashi

阿嘉島の冬は、温暖な気候と適度な雨量によって、野菜づくりには最も適した季節と言えるでしょう。畑で野菜づくりに勤しむ島人たちを横目に、毎年、暖かい阿嘉島で冬を過ごす為、アジア大陸の寒冷地などから渡来する鳥たちがいます。

今年も、多くの冬鳥が阿嘉島に渡来しました。例年より特に個体数が多いように感じられたのはシロハラ（ツグミ科；写真1）です。畑では数羽のシロハラが集まって、あちらこちらでテリトリー争いをしています。また、同じツグミ科のツグミやアカハラも、シロハラたちに混じって採餌していました。彼らがここまで畑に執着するのは、餌となるミミズや昆虫類が容易に採餌できるからでしょう。野菜に付く昆虫は勿論、耕された畑なら土の中のミミズや昆虫類を容易に捕らえることが出来るはずです。土掘りが得意なシロハラは、ある日の観察では口ばしを上手く使って土を掘り起し、土の中のこがね虫の幼虫を引っ張り出して捕らえていました。

11月下旬から2月初旬、シロハラとほぼ同時期に多数観察できるウグイスに似た鳥がいます。この鳥は、羽色や鳴き声の特長からカラフトムジセッカ（ウグイス科；写真2）と思われます。どういう訳かこの鳥は、毎年の様に研究所内の廊下や客室に迷い込んで来ます。小さな羽虫を追いかけて迷い込んでしまうのでしょうか？それとも単に好奇心が強いだけなのでしょう？何れにしても一旦迷い込んだらパニック状態になり、中々脱け出せないようです。彼らもシロハラと同様、畑や雑草の茂みなどで採餌しています。特に青菜に付く昆虫は好物のようで、葉の裏に付いた小さな虫さえ見逃さず、せわしなくついでに食べています。

畑を訪れる鳥たちの大半は野菜に付く昆虫を捕らえて食べてくれるので、野菜づくりに携わる島人にとっては有り難い存在です。しかし、突然、葉野菜を食い荒らす鳥が現れたのです。それはリュウキュウヒヨドリ（ヒヨドリ科；写真3）でした。この鳥は、



写真1. シロハラ.



写真2. カラフトムジセッカ.



写真3. リュウキュウヒヨドリ.

最初の内は桑の実やアコウの実などの木の実をついでに食べていました。その後、お正月のしめ縄のミカンにも訪れるようになりましたが、これらは日常的に人里で繰り広げられる光景でしょう。ところが、ある日突然、畑のプロッコリーの葉に数羽のリュウキュウヒヨドリが群がり始めました。ある畑では、見る

見る内にブロッコリーの葉は食べ尽くされて、その次は紫キャベツ、その次はレタスへ、という具合にエスカレートして行きました。日頃は警戒心が強く、人の気配を感じると直ぐに逃げてしまうのに、ブロッコリーの葉を食べている時は近くに寄ってもなかなか飛び立ちません。この事から推察すると、特にブロッコリーの葉は何か彼らを引き付ける要因のある、魅力的な野菜だったのでしょうか。幸い、このブロッコリーの葉襲撃事件は短期間で幕引きとなりました。食い荒らされた葉野菜は、今では何事も無かったように順調に育っています。後に、畑のおばさんの話によるとリュウキュウヒヨドリに葉野菜を食べられたのは今回が初めてだったそうです。

畑に飛来する鳥たちを脅かす存在があります。それは島々の上空で猛禽類特有の旋回を見せる渡り鳥、サシバ（タカ科；写真4）です。時折、道路脇の電柱にとまり、眼下に広がる畑の冬鳥たちに睨みを利かせています。とある日の観察では、ガジュマルの木に集まるメジロたち目がけて体当たりしたり、ブロッコリーの葉に群がるリュウキュウヒヨドリを上空から急降下で襲ったりと、見た目にはかなり荒っぽい狩りだと思いました。その時、群れの中の一羽のリュウキュウヒヨドリが鳥除けのネットに絡まり、

危うくサシバの餌食になる所でしたが、タッチの差で難を逃れていました。さすがのサシバも自分より小回りの利く小さな鳥たちを捕獲するのは容易ではないようです。一見、向かう所敵なしの猛禽類、風格のあるサシバですが、島の住人（留鳥）リュウキュウハシブトガラスには敵いません。体つきもリュウキュウハシブトガラスの方がひとまわり大きく、分厚く頑丈そうなくちばしと太い足、そして何より厄介なのは数羽の群で単独のサシバに向かってゆくことです。もっとも、リュウキュウハシブトガラスも、サシバを餌にしようとは思っていないでしょうが、数羽のリュウキュウハシブトガラスに追い掛けられるサシバを何度も目撃しましたし、夕刻、サシバがねぐらから追い立てられるという一幕もありました。

2月も半ばにさしかかると冬鳥たちを見かける回数も少なくなりました。現在、多くのシロハラたちで賑わった畑には、旅鳥のヤツガシラ（ヤツガシラ科；写真5）が飛来しています。そして、残り少ない冬鳥たちと共に昆虫類を採餌しています。ヤツガシラは、褐色の立派な冠羽や白黒の縞模様の翼が特徴的な、希少な渡り鳥です。冬鳥たちに代わって渡来した旅鳥のヤツガシラ、阿嘉島に春の訪れを告げるのに相応しい美しい鳥です。

< 2004年－2005年冬季に阿嘉島の畑で観察された鳥類 >

（なお、*印の全長は実測値だが、それ以外は図鑑等から引用した。）

シロハラ（ツグミ科）：写真1

全長約24 - 25cm。ウスリー・アムール川下流域で繁殖。日本には冬鳥として渡来し、本州中部以南で多いと言います。

カラフトムジセッカ（ウグイス科）：写真2

全長約12 - 13cm。東シベリア南部からウスリー・中国北東部・朝鮮半島北部・サハリンで繁殖します。北海道・本州・南西諸島では数の少ない旅鳥、または冬鳥として記録があり、八重山諸島では少数の越冬例があるそうです。

リュウキュウヒヨドリ（ヒヨドリ科）：写真3

全長約27 - 28.5cm。日本全土に留鳥として分布するヒヨドリは8亜種が生息し、亜種リュウキュウヒヨドリは沖縄・宮古諸島の留鳥です。

サシバ（タカ科）：写真4

全長♂約47cm、♀約51cm、翼開長約105 - 115cm。ロシア沿岸地方・中国北東部・朝鮮半島で繁殖。日本では本州・四国・九州に夏鳥として渡来し、南西諸島では越冬します。

ヤツガシラ（ヤツガシラ科）：写真5

全長約26 - 28cm。ヨーロッパ南部および中部・アフリカ・南アジアからインドシナ・中国・ロシア沿

岸地方に分布し、熱帯以外のは冬季南へ渡ります。日本では数少ない旅鳥として全国で記録があり、南西諸島では毎年春に渡来します。秋田・長野・広島では繁殖した事があるそうです。

チュウサギ（サギ科）：写真6

全長約65 - 72cm、翼開長約105 - 115cm。朝鮮半島から中国・東南アジア・インド・オーストラリア・アフリカに分布。日本では本州・四国・九州・佐渡に夏鳥として渡来し、繁殖します。南西諸島では冬鳥として渡来し、越冬する個体もいます。

ジョウビタキ（ツグミ科）♂：写真7

全長約14cm。シベリア南部・ウスリー・モンゴル東部・中国北部・チベット南西部で繁殖。日本では冬鳥として全国に渡来し、北海道で繁殖例があります。

ホオジロ科の一種：写真8

全長14.4cm(＊)。この鳥は研究所館内で見つけた死骸です。

ホオジロハクセキレイ（セキレイ科）

全長約21cm。日本で観察できるハクセキレイは6亜種の記録があります。最も一般に観察できるのは亜種ハクセキレイで北海道から九州以北で繁殖します。北方のものは冬季に暖地に移動します。亜種ホオジロハクセキレイは中国・九州地方で繁殖し、日本海の離島や南西諸島を中心に旅鳥、または冬鳥として渡来しますが、数は少ないそうです。

アカハラ（ツグミ科）

全長約23.5cm。サハリン・南千島で繁殖し、台湾・中国南部・フィリピンで越冬します。日本では本州中部以北で繁殖し、本州中部以南で越冬します。

ツグミ（ツグミ科）：写真9

全長約24cm。東シベリアおよびロシアの極東地域で繁殖し、中国南部・台湾・ビルマ北部で越冬します。日本には2亜種（亜種ツグミ・亜種ハチジョウツグミ）が冬鳥として全国に渡来します。亜種ハチジョウツグミは希少です。

ツグミ科の一種：写真10

亜種ツグミに似ていますが、腹部の模様が異なります。

イソヒヨドリ（ツグミ科）♂：写真11

全長約25.5cm。ヨーロッパ南部から日本に至るユーラシア大陸で繁殖し、冬季はアフリカ・アラビア半島・インドから東南アジアに渡ります。日本では全国に留鳥として分布し、北海道のものは冬季南下します。南西諸島では一年中、海岸の岩場、および内陸部で観察できます。

セッカ（ウグイス科）

全長約12.5 - 13.5cm。日本では本州以南で繁殖する留鳥、または漂鳥。北陸や東北地方のものは冬季に南下します。

リュウキュウキジバト（ハト科）？

全長約32 - 35cm、翼開長約53 - 60cm。亜種キジバトは日本全土に留鳥として分布し繁殖。南西諸島にも記録があります。亜種リュウキュウキジバトは南西諸島に分布し、亜種キジバトより全体に暗色です。

リュウキュウハシブトガラス（カラス科）

全長約56.5cm。日本のハシブトガラスは留鳥として小笠原諸島を除く（以前は生息）全国に4亜種が分布し、奄美列島・沖縄諸島には亜種リュウキュウハシブトガラスが生息します。

スズメ（ハタオリドリ科）

全長約14.5cm。日本では留鳥として小笠原諸島を除く全国に生息し、繁殖します。



写真4. サンバ.



写真5. ヤツガシラ.



写真6. チュウサギ.



写真7. ジョウビタキみ.

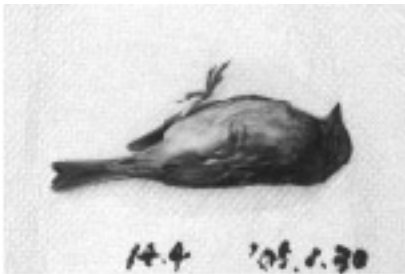


写真8. ホオジロ科の一種.



写真9. ツグミ.

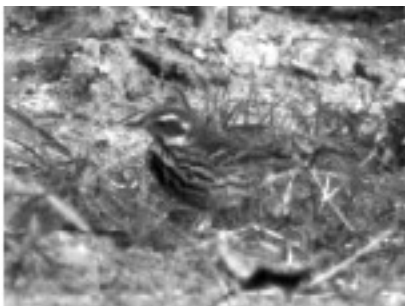


写真10. ツグミ科の一種.



写真11. イソヒヨドリみ.